

農業委員会地区座談会を実施 ～ 10年後を議論～

7月12日から31日にかけて大衡村内の農業者を対象に農業委員会地区座談会が開かれた。参加者が、10年後に自身の農地は誰が耕作しているのかを考え、地域の実態を踏まえた農地利用最適化の推進や農業振興の実践に向けることが狙い。

村内でも高齢化や担い手不足が進むと、農業者が農業を続けるのが難しくなった時に農地の借り手が見つからない可能性が出てくる。直面する問題に対し、村内11ヶ所の集会所で合計110名の農地の所有者と利用者が意見を交わした。



農業委員の関内秀樹さん（69歳）は「私の住む地区に若い人は少ないが全くいない訳ではない。農地の基盤整備などを実施し、営農環境を整える必要がある。これからの世代が農業をやりやすいようにすることが必要」と発言。座談会では、現在の農地をそのまま借り手に渡すのではなく、農地を基盤整備し、集積と集約をして借り手が農業を行いやすい環境を作ることが課題として共有された。

村農業委員会の齋藤浩事務局長は「今回の座談会で今後の全てを決めるのではなく、まずは地域農業のこれからについて話し合うきっかけの場が重要と考えている」と述べた。

【記事提供：大衡村農業委員会】